

2013年度
NEC森の人づくり講座（第26期）
実施報告書

平成 25 年 8 月 31 日（土）～9 月 3 日（火）

Aコース オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズ・スクール

| 応募状況 | Aコース | | Bコース | | 合計 |
|--------|------|----|------|----|----|
| | 現役生 | OB | 現役生 | OB | |
| エントリー数 | 19 | 1 | 28 | 4 | 52 |
| 参加者数 | 10 | 0 | 10 | 4 | 24 |

主 催： 公益社団法人 日本環境教育フォーラム

協 賛： 日本電気株式会社

プログラム運営： 森林たくみ塾／公益財団法人キープ協会

目次

| | |
|--|----|
| Aコース：オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町) | 1 |
| ■ 講座のねらい | 1 |
| ■ スケジュール | 2 |
| ■ プログラム報告 | 4 |
| <1日目 出会い ～知識を入れる器づくり> | 4 |
| <2日目 森と私のつながり ～体験を五感で感じる> | 5 |
| <3日目 森と私のつながり ～手を動かして考える> | 6 |
| <4日目 次につなげるもの ～自分と対話する> | 7 |
| ■ Aコース:オークヴィレッジ／森林たくみ塾受講生(26期生)の感想です。 | 9 |
| Bコース：キープ・フォレスターズ・スクール(山梨県北杜市高根町清里) | 12 |
| ■ 講座のねらい | 12 |
| ■ スケジュール | 13 |
| ■ プログラム報告 | 16 |
| <1日目> | 16 |
| <2日目> | 16 |
| <3日目> | 17 |
| <4日目> | 18 |
| ■ Bコース:キープ・フォレスターズ・スクール受講生(26期生)の感想です。 | 19 |

Aコース： オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町)

■講座のねらい

- ・ 環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを実感すること。
- ・ 森との関わりから、ポスト 3.11 の復興と暮らし方を考える。
- ・ 「持続可能な社会」の構築に向けて、IT ができることを考える。

■講座中に伝えたいこと

- ① 知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。
- ③ その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。
- ④ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。
- ⑤ そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。
- ⑥ 行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。
- ⑦ ポスト 3.11 の暮らし方を考える、その基礎は「緑の国から」。

■そのために大切にしたいこと

- ① 蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
- ② 分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じることに。
- ③ 実践を通して「手応え」を感じることに。

■ スケジュール

=====
1日目 8月31日(土) 出会い ～知識を入れる器づくり
=====

14:00 開講式
14:40 実技「森づくり導入編」
16:00 フリータイム(入浴等)
17:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要か？」
18:00 夕食
19:00 小講義「日本の森を知る」
20:30 森人大交流会

=====
2日目 9月1日(日) 森と私のつながり ～体験を五感で感じる
=====

08:00 朝食
09:00 小講義「ミクロの視点・マクロの視点」
10:00 実技「森づくり・実践編(前編)」
12:00 昼食
13:00 実技「森づくり・実践編(後編)」
16:30 フリータイム
17:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
18:00 夕食
19:00 小講義「震災後に再認識する、森と人との付き合い方」
21:00 トークセッション

=====
3日目 9月2日(月) 森と私のつながり ～手を動かして考える
=====

08:00 朝食
09:00 移動:たくみ塾へ
09:15 実技「木を使うことの大切さ」
10:00 実技「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 つづき
14:00 特別講座「NECの社会貢献活動」
(NEC CSR・環境推進本部 CSR・社会貢献室 池田俊一さん)
16:00 見学「オークヴィレッジに見る、森林資源の利活用」
17:30 夕食
19:15 ITで特別講座「くりこま高原自然学校に見る、東北の震災復興」
20:00 小講義「復興支援としての森づくり」
21:30 森人大交流会

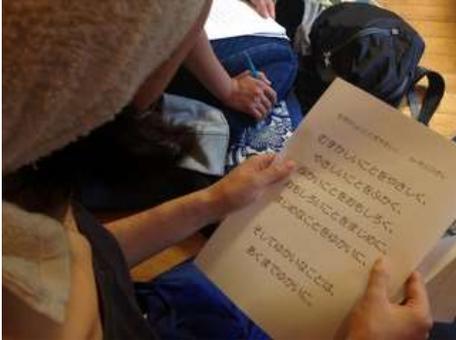
=====
4日目 9月3日(火) 次につなげるもの ～自分と対話する
=====

08:00 朝食
09:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って」

- 09 : 30 小講義「森人流、事を起こす・輪を広げる」
- 10 : 00 実技「ソロ～たった一人でふり返り」
- 12 : 00 昼食
- 13 : 00 全体のふり返り
- 14 : 00 閉講式

■ プログラム報告

<1日目 出会い ～知識を入れる器づくり>



開講式

講座に参加したら何か学べるわけではない。受け身ではなく、講座に参加して何を学ぼうとしているのかを持って、主体的に関わるのがこの講座。井上ひさし氏のことばを引き合いに、この講座に参加する姿勢を開講式の挨拶とした。

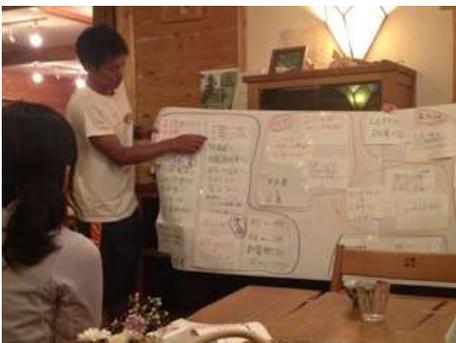


実技「森づくり・導入編」

森に着くと、先輩たちが手入れしてきた森の様子を観察しながら軽く散策。そして森の手入れの作業に入る。学生たちには「今見てきた先輩たちが手入れした森とおなじになるように手入れをしてください」とだけ指示をした。はじめは何をどうしたものか戸惑っている学生たちも、一人また一人と何かしら考えて作業をし始めた。ササを刈り始めた学生に「どうしてササを刈るの?」、木を伐る学生には「木を伐ると、どうなるの?」と聞いて回る。



『いきなり森の手入れをすることになって、結構困った。』『自分で色々考えながら行動することができた。』 指示待ち人間でいることに慣れている学生たちが、「失敗してもいいから、とにかく自分たちで考えて、まずはやってみること」の大切さを感じる場面。そして「もっと知りたいという欲求」が学びの原点だということを理解する時でもある。



グループ討議「なぜ森の手入れが必要か？」

何も指示をされない森の手入れを通して得た疑問や感想などを、グループでまとめて発表する。『人によって見ているところとか、感じるところが違うんだなあ。』 同じ森でも人によって感じ方が違う、視点が違う、考え方が違う。それらを共有して価値観の違いを認識することも大切なんだ。



小講義「日本の森を知る」

実技を通して『森についてもっと知りたい!』という欲求を持った学生たち。ここで初めて小講義が始まる。日本の森を考える上でこれだけは知っておいてほしいという基本的な知識を伝える時間。『夕食後の講義の内容が身に沁みだ。』慣れない森の作業で疲れ、夕食後の講義で眠たいだろうに、学生たちの眼差しは真剣そのもの。

<2日目 森と私のつながり ~体験を五感で感じる>



小講義「ミクロの視点・マクロの視点」

作業に入ると、ついつい目の前のことだけを見てしまいがちで、周りを見る余裕を失ってしまう。なにか事を起こすときは、全体を俯瞰して見る目も必要だ。地球規模で物事を捉えながら、目の前の実践を行なう「Think Globally, Act locally」の考え方は、持続可能な社会構築のためのキーワードでもある。

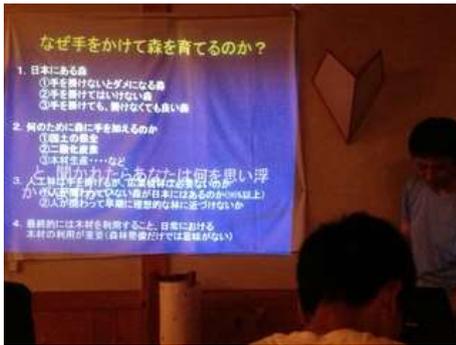


実技「森づくり・実践編」

『昨日よりもチームでの行動が意識でき、協力しあって効率良くなった。』声の大きい人にメンバーが引っ張られがちだが、今回はそういうことが苦手そうな学生をグループリーダーに決めた。作業へ入る前に計画と役割を分担、そして途中で作業内容をふり返り、必要があれば計画の軌道修正を行いながら、一日中森での作業を行なった。



『何が正解か、誰の考えが正解かは誰にも分からない。でも森の未来のことを考えて行動することが大切だ。』初めから正解などない。失敗しなければ合っているかどうか解らない。モノゴトは、「まずはやってみる」⇒「結果から次の行動を考える」⇒「もう一度やってみる」⇒「もう一度考える」の繰り返し。このことを理屈でなく実体験を通して理解していく。新たな時代を切り拓くには、誰もやったことがないこともやらなければいけないのだから。



小講義「手を掛けて森を育てる」

『森は、人間が手を加えない形が一番よいと思っていた』 そう思っている人は少なくない。日本や世界の歴史を通して、人が森を利用したことで環境破壊につながってきた事例や、一方で手を掛けて森を育てながら森を利用してきた事例を読み解く。「自然環境を守る」という時に混同しやすい「保護＝preservation」と「保全＝conservation」の違いが理解できただろうか。

<3日目 森と私のつながり ～手を動かして考える>



実技「木を使うことの大切さ」

『森を元気にするために伐った木が、人間の役に立つものに生まれかわるんだ。』 「植えて～育てて～伐って～使う」。持続可能な森づくりでは、このサイクルを廻すことが重要。自分たちで手入れした森から伐り出した木を使う。「製材」というプロセスを体験しながら、丸太が板になっていくにつれて変わっていく表情に魅了される。



実技「森のモノづくり」

『森を使うということを自分でやってみて、森のサイクルの一端を担えた。』 ナタで割って丸太から作った材料を、カンナを使ってひたすら削ってゆく。はじめはザラザラしていた木肌が削ってゆくとツルツルになる。削るたびに出てくるカンナくずの手触りと匂い。手を動かしているだけで、五感が総動員される。



特別講座「NECの社会貢献活動」

本講座に協賛しているNECのCSR・社会貢献室の池田俊一マネージャーより、CSRについての講義。『CSRというと義務感でやっているというイメージしか持ってなかったけど、NECは全社でこんなにも熱心に考えて活動していることに驚きました。』企業の利益を社会に還元するために寄付をして社会貢献することから始まったが、企業活動を継続させていくために必要なこととしてCSRがある。NPOやNGOとWIN-WINの関係で活動することが大切だ。



見学「オークヴィレッジに見る、森林資源の利活用」

『家具や小物・建築物、どれもキラキラして見えた。』 「木」という素材の魅力を余すところなく惹き出す技と、持続可能なモノづくりを行なうオークヴィレッジのショールームを見学。「木でモノを作る」ことが「森と暮らしをつなぐ」ことにつながると、腑に落ちただろうか。



特別講座「くりこま高原自然学校に見る、東北の震災復興」

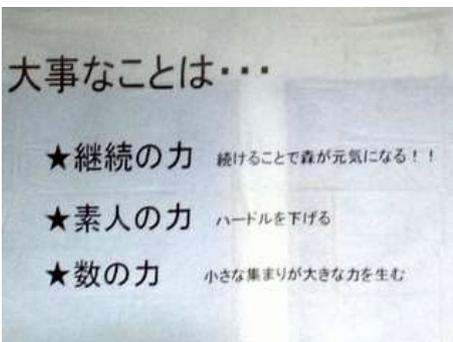
くりこま高原自然学校の塚原俊也さんによる、スカイプを用いた特別講義。同時開催しているBコース（キープ・フォレスターズ・スクール）の参加者と一緒に、塚原さんのお話を伺った。「 $Y=aX$ のaを大きく育てよう！」「Cゾーンからとびだせ！」のメッセージは学生にしっかりと伝わったようだ。『今から自分が東北支援に行っても遅くはないのか？』これまで遠くの出来事と思っていたことを、自分事として捉える学生たち。

<4日目 次につなげるもの ~自分と対話する>



スライドショー「4日間の活動をふり返って」

長くも短くも感じる4日間に行なってきた様々な活動を、スライドショーでふり返る。



小講義「森人流、事を起こす・輪を広げる」

「新しいコトを世の中に広めようとするときには、”イノベーター”とそれに続く”アーリーアダプター”の動きが大事なんだ。」
「技術・知識と経験を持ったプロと既成概念にとらわれない素人の力を合わせると、今までできなかったこともできる。」
学んで終わりとせず、行動に移すためのヒント。



実技「ソロ～たった一人でふり返り」

この4日間、仲間とともに時間を過ごし、仲間とともに行動してきた。最後の時間は、森のなかで一人で過ごす時間。じっくりとこの4日間をふり返りながら、自分自身と向き合う時間。何のためにこの講座に参加したのか。この講座で何を得たのか。そして得たものを何につなげるのか。

講座に参加して終わりとせず、「知っているから知っている」人になる時間。

全体のふり返り～閉講式

午前中の一人でのふり返りを、全体で共有する時間。

『仲間との出逢いに感謝。』『飾らない自分でいることが認めてもらえる、安心できる場だった。』『たくさんの方に、ここでの体験を伝えたい。』 限られた時間では話しきれないくらい、この4日間で得たものは大きい。



■ Aコース:オークヴィレッジ／森林たくみ塾受講生(26期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加工しています。

「4日間のこの講座を通して『獲得したもの』は何ですか？」

SH (麻布大学)

森づくりと人づくりのシステムが有るこの場所に来て、感激しました。森をつくり～生かし～つなぐことがうまく出来ているので、これからの森と人の関わりに大きな影響をおよぼすのではないかと期待しています。私自身がどの業種に就くにせよ、森や自然には関わっていきたくと強く思いました。森に対する様々な人の想いを聞いたりして、森への想いが更に強くなりました。それとともに、もっと多くの人に森や森のために熱心に頑張っている人々を見てもらいたい気持ちが生まれました。想いが力を生み、人が集まり、世界が変わる。その瞬間を見ることができ、ワクワクしています。「私にもできることはある」と信じて一歩踏み出す勇気は手に入れたので、後は動き続けていきます。

SH (芝浦工業大学)

この講座で、私は人と森の付き合い方を学びました。実際の作業や講義を通して、歴史や現状を知り、人と森がどう関わってきたか、どう関わっていくべきかを知りました。特にこの講座の中で、間伐～製材～加工～利用という「木」の一連のサイクルを自分で行なうことができ、自然としての森と生活としての森の両方を体感することが出来ました。また、この講座に参加して広がった人とのつながりも自分が得た大きなものです。様々なバックグラウンドを持った人間が、「森」というキーワードでつながり、意見を交換し、互いに理解を深めることが出来たのも、森が持つ力のおかげかなと感じます。今後、自分が身に付けたことを周囲の人に伝え、意見を交わしたいと強く思いました。

MK (北九州市立大学)

初めて森に入って、まず答えも与えられず、自分で森を整備する目的を探りながら作業をすることで、疑問から自分の力で答えを導き出していくプロセスを考えられるようになった。そして、人の話を聞いたり、自分の目で見ると新しい発見をしたりすることで、森に対しても更に関心が強くなり、多くの知識を持つ人の考えに触れることで、自分の将来への刺激となった。これからは森や環境に関する活動に関わっていきたくと思えるようになった。最初はこんな少人数が学んでも変わることはあるのかとも思っていたが、それぞれが多くの人に今回の経験を伝えていって、自分自身もこの経験や知識を次のステップにしていけば大きな力になるのだと感じた。短い間で一生懸命に吸収しようとしていた自分が思い出され、ほんとうに素晴らしい経験になったとおもった。自分を変える良い機会になった。

NH (鳥取環境大学)

私がこの講座を通して獲得したものは、「森はサイクルによって成り立っている」ということだ。ただ単に樹を伐採して終わりではなく、木を植えて、育てて使う。このサイクルが重要なのであって、このどれか一つが欠けても森を持続させることは出来ない。今までは、森のことを全くと言っていいくらい知らなかったことを思い知らされた。将来は森に携わる仕事につきたいという思いが芽生えてきた。そして、今回の講座のことやそれ以外の森のことをしっかりと伝えていく大人を目指そうと思った。そして、最初の「フォロワー」になれるように、日常の生活から変えていこうと思った。

MK (金沢大学)

行動する大切さを実感した。私は行動する前に色々考えてしまう超慎重人間で、そのために様々な機会を逃してしまってきた気がする。だから今回この講座に応募したのは、自分としてはかなり勇気を出した結果だった。Cゾーン(=安全・安心な自分の範囲)を超えた。でもそのことで得られたものは本当に多かった。遠くに住んでいる同じ興味を持った同年代の仲間と出会え、実際に森とか変わって生きている人と出会え、自分で行動し話を聞いてまた自分で考えた4日間では短かったけど獲得できたものは大学で得られるものの何倍もあったと思う。今後は自分の住む近くで行われている活動を調べ、積極的に参加していきたい。そこでまた新たな出会いがあるのではないかと期待する。こんなモチベーションを得られたのもこの講座に参加したからだと思う。一緒に活動した仲間、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。楽しかった！！

EK (京都造形芸術大学)

「獲得」と聞いて、私の中ですぐに思い浮かぶものがあります。それは「自信」です。私はどちらかと言えば人見知りで、他者を避けてしまうところがありました。そのため来る前は人と会話ができるのか不安でしたが、思っていたよりも案外普通に会話ができ、一緒に笑えるようになっていました。私は本当に考えすぎていたのだなと強く感じました。自分が思うよりも人と接することができる気づいたことは、今後自信となって、生かしていきたいです。この講座で私は私の甘さを知りました。一人では出来ないこともあると思い知らされました。本当に経験しないと理解できないものを得ることが出来ました。この経験を活かして、それらのことについて勉強していこうと思います。

MY (佛教大学)

この講座を通して、自分の思いや願いを持って行動を起こしてみることや、仲間と考えを共有しあうことの大切さを実感しました。1日目は好きにやるということで戸惑ってなかなか一步を踏み出すことができなかつたのですが、「どうなってほしい」という言葉を聞いてからは、自分ならこの先にこうなってほしいという思いを持てるようになり、行動に移すことができました。また、仲間でどうしたいか考えて同じ思いを持って行動することで、力が何倍にもなると感じました。現在の森が置かれている現状を知り、いろいろな人に少しでも現状を知ってもらえるようにしていきたいです。あつという間の4日間でしたが、以前よりも自然・特に木を近くに感じることができ大好きになりました。そして、何に対しても先を見据えて思いや願いを持って行動することが大切だと分かりました。

HN (名古屋大学)

私は仲間に恵まれました。眼も語り口もゆっくりで、よく笑う人に囲まれ、自分も落ち着くことができました。「夜の講座」での恋愛の話や生き方の話も有意義でした。自分はまだ、自分が愛される人だということを信じきれていないんだと再認識すると同時に、ずっと気にしていたありのままの自分を、太っていてもいいんだと認められるようになってきたという気づき、驚きも得られた。森にはこんなにも多くの種類の木々が生えていると知った。どんなことでも楽しめばいいと真面目な場で笑いながら話したスタッフが印象的だった。虫が寄ってきても気にならなくなった。今の時間(一人でふり返り)のように、皆といる中で一人になれる時間の幸せを改めて感じた。

YS（芝浦工業大学）

私がこの講座に参加して得たものに、人との出会いがあります。講座では、普段大学に通っているだけでは絶対に出会えないような人たちと出会うことができました。環境、福祉、医学、芸術、教育、外国語…工業大学に通っている私にとって、ほかの分野を学んでいる人たちと出会い、共にときを過ごす、ということはかなり衝撃的な体験でした。年齢もバラバラ。森づくりやモノづくりに関わっているスタッフ・OBの方を含め、話したことや、皆さんの立ち振る舞い・在り方からも多くのことを感じ、学ぶことが出来ました。そして、皆、積極的で穏やかで、シャイな私も溶け込むことができました。また、人が集まり共になにかをする、ということはどういうことか、ということ、この講座全体を通して学んだように思います。そして、森づくりの作業を通して、身に迫るような思いで環境のことを考えるようになりました。身をもって本当に多くのことを学べたことに感謝しています。

HF（愛知県立大学）

私がこの講座を通して獲得したものはとてもたくさんあります。ひとつは、森や木や自然がとても身近になったことです。この講座を終えてから、日頃使っている机や椅子など木の製品に目が行くようになりました。木を伐ってモノづくりをして使うと言うサイクルを体験できたことで、木を伐ることの大変さ、モノづくりの奥深さを少しですが知ることができました。2つ目は、自然や環境問題について考えることが、自分に合っているとわかったことです。森に入って活動をしていくうちに、森の見え方が変わってくるのも面白かったし、日本の森のことを勉強して、環境問題について今後自分のできることから活動していきたいと思いました。

他にもたくさん得たことがあります。講座に参加して楽しい思い出もたくさん出来ましたし、気の合う仲間もできました。本当に参加してよかったです。ありがとうございました。

Bコース： キープ・フォレスターズ・スクール(山梨県北杜市高根町清里)



■ 講座のねらい

「インタープリテーション～人と人・人と自然のつなぎ方」

環境問題解決の第一歩は、コミュニケーションから。

自然と人、人と人をつなぐ「インタープリテーション」について学びながら、より良いコミュニケーションのあり方を考えます。

■ 講座中に伝えたいこと

- ① 環境教育について学ぶ（企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る）
- ② インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
- ③ 自分自身と環境教育との関わりについて考える（自分なりの言葉で説明できるようになる）
- ④ 全国の仲間とのネットワークを作る
- ⑤ 自分自身のねらいを達成する

■ そのために大切にしたいこと

- ① 体験から学ぶこと
- ② お互いから学ぶこと
- ③ 楽しみながら学ぶこと

■ スケジュール

1日目 8月31日(土)

- 13:10 開講式
- 13:25 野外に出る準備
- 13:30 お互いを知り合う時間／アイスブレイキング（村山）
「ネームトス」「フルーツバスケット」「ストッキングボール」
- 14:15 環境教育施設の見学①八ヶ岳自然ふれあいセンター（村山）
- 14:45 インタープリテーションの体験①ヤマネをテーマにしたガイドウォーク（村山）
- 16:00 環境教育施設の見学②やまねミュージアム（村山）
- 16:30 休憩・チェックイン
- 17:00 目的の共有化・自己紹介（村山）
・スケジュール&講座のねらい説明
・自己紹介シートの作成 ①プロフィール ②お国自慢 ③参加動機
・記入後に、小グループで①②③を話題に自己紹介
・自己紹介シートの作成（続き） ④自分のねらい
・④について、全員で紹介しあう（自己紹介シートを壁に掲示）
- 18:00 夕食
- 19:15 講義：環境教育概論（関根）
「環境教育の“環境”とは？」「なぜ“関係”の問題なのか？」「持続可能な社会とは？」
「最も恐れるべきこと」「環境教育の反作用」
- 20:15 1日を整理する時間
- 20:30 終了（以降、自由交流会）

2日目 9月1日(日)

- 08:00 朝食
- 09:00 生物多様性を考える（村山）
・アニマルパスウェイ（樹上性動物の通り道）周辺の調査用巣箱の地図を作成する
- 12:15 昼食
- 13:30 インタープリテーションの体験②参加者主体型（関根）
「カモフラージュ」「私の葉っぱはどれでしょう？」
「葉っぱのラインナップ」「葉っぱのスライドショー」
- 14:45 オプション：展望テラスまでお散歩
- 15:15 休憩
- 15:30 講義：インタープリテーション概論（関根）
「インタープリテーションとは？」「インタープリテーションが伝えること」

- 「インタープリテーションの定義」「インタープリテーションの6つの型」
- 16:00 実習：プログラム作り／オリエンテーション（村山）
- 16:15 実習：プログラム作り／グループ作り（関根）
「グループで大切にしたいこと」「グループ名」を決める
- 16:35 実習：プログラム作り／素材探し
- 18:00 夕食
- 19:15 実習：プログラム作り／準備
「脚本家としてのインタープリター」「役者としてのインタープリター」（関根）
- 20:20 インタープリテーションの体験③ナイトハイク（小野寺）
- 21:30 1日を整理する時間
- 21:45 終了（以降、自由交流会）

=====

3日目 9月2日(月)

=====

- 07:00 実習：プログラム作り／準備（任意）
- 08:00 朝食
- 08:45 実習：プログラム作り／リハーサル
- 09:30 実習：プログラム作り／実施&相互評価
- 1) 男塾 「森の中で」
 - 2) 自然三姉妹 「森の水族館」
 - 3) triangle 「森からの Inspiration」
 - 4) もぐもぐパクパク 「感覚図鑑」
- 11:30 休憩
- 11:45 実習：プログラム作り／フィードバックの記入
- 12:00 実習：プログラム作り／評価会
- 1) 自己評価
 - 2) フィードバックの読み合わせ
 - 3) プログラムシートの改善
- 12:45 実習：プログラム作り／ふりかえりとわかちあい
- 1) 「インタープリテーション」「グループ内のコミュニケーション」についてふりかえる
 - 2) 実施グループでわかちあい
- 13:00 昼食（弁当）
- 14:15 NEC の社会貢献活動「環境・生物多様性保全活動」
(NEC CSR・環境推進本部 CSR・社会貢献室 松下直子さん)
- 15:15 休憩
- 15:30 実習：IT×EE を考える（関根）
- 1) IT で思い浮かべるものは？
 - 2) IT を活用しているコト・モノって？

- 3) IT を活用して EE (環境教育) の普及を考える (IT×●●×EE の可能性を考える)
- 4) 3) について小グループで自由に話し合う
- 5) 話し合ったことを松下さん・他のグループに発表

16:40 休憩

18:00 夕食

19:30 IT でつなぐ／スカイプによる特別講義 (くりこま高原自然学校 塚原俊也さん)

20:30 1 日を整理する時間

20:45 終了 (以降、自由交流会)

4日目 9月3日(火)

08:00 朝食、チェックアウト

09:30 補いの講義・質疑応答 (関根)

「コミュニケーションで伝わるもの」「より良いコミュニケーションとは？」

「インタープリターがつくるもの」「改めて...インタープリテーションとは？」

「学びから行動へ」

10:20 休憩

10:40 講座全体のふりかえりとわかちあい

12:00 昼食

13:00 閉講式

14:00 終了、解散

■ プログラム報告

<1日目>



開講式～お互いを知り合う時間(アイスブレイキング)

26期生10名とOB生4名が集まり、幕を開けたBコース(キープ・フォレスターズ・スクール)。まずは外に出て、簡単なゲームを通じて、お互いの顔や名前を覚えていく。ドキドキとワクワクが交錯しながらも、身体を動かすと、自然と笑顔がこぼれる。いよいよ4日間の講座の始まりだ。



自己紹介と目的の共有化～環境教育概論

展示施設の見学や、ガイドウォークを体験した後、キャンプ場に戻って自己紹介シートを作成。自分自身がどんな動機でこの講座に参加し、そして講座で何を得たいのか、一人ひとり発表をした。夕食後は、キープ協会が考える環境教育についての講義。環境教育は、様々な関係の再構築を目的としていること、人々が関心や感受性を獲得するために、それを促す役割が必要なこと、などを学んだ。

<2日目>



生物多様性を考える

キープ協会の周辺は広大な森が広がっている。この森には、国の天然記念物ヤマネが生息している。1日目のガイドウォークでは、ヤマネの生態やヤマネを取り巻く環境、キープ協会が取り組むヤマネの調査・研究などについて知ることができた。この時間では、ヤマネをはじめとした樹上性動物の通り道「アニマルパスウェイ」の利用状況の調査に必要な、調査用地図を作成するという課題が与えられた。



小グループに分かれて、コンパスや巻尺を駆使して地図を作成していく。はじめは道具の扱いに不慣れで時間がかかったが、繰り返すうちに、効率的に作業が進んだ。完成した地図は、今後の「アニマルパスウェイ」の改善や普及に役立つもの。地道な作業の連続だったが、地図が出来上がると大きな達成感を得られた。



インタープリテーションの体験～インタープリテーション概論

インタープリテーションは、直訳すると「通訳・解説」。自然のメッセージを言葉に訳す、つまり、見えないもの（語らないもの）を伝えること。この時間では、インタープリテーションの一例を体験した後、インタープリテーションの定義やポイントを学んだ。いよいよ、Bコースの柱となる実習、自分たちでプログラムを作り上げ、お互いに発表しあう時間だ。



実習：プログラム作り／オリエンテーション～グループ作り

4グループに分かれて、いよいよ実習の開始。「持ち時間は20分」「プログラムのねらい（伝えたいこと）を設定する」など、実習の与件（与えられた条件）が説明される。ここからは、グループでの共同作業。プログラム作りに入る前に、グループで大事にしたいことを決め、グループとしての意識を高めていく。



実習：プログラム作り／素材探し～準備

机の上だけで考えていても始まらない。グループごとに外に出て、インタープリテーションの素材探し。自分たちが「面白い!」「驚いた!」と思うこと（＝伝えたいと思う素材）を持ち寄り、伝えたいこと（＝ねらい）を決めていく。夕食後も各グループで熱論が続いた。

<3日目>



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価／実施と相互評価

講座3日目は朝から雨。それでも発表の時間は迫る。どのグループも直前まで準備をし、いよいよ発表の開始。自分たちがインタープリターとして、自然の面白さや魅力を、趣向を凝らしたプログラムを通して伝える。雨でびしょ濡れにはなったが、楽しく発表しあえた。発表後には、お互いに感想や改善点をメモし、これを材料に、次回再び実施するとしたらどのような改善ができるか話し合った。



実習:IT×EEを考える

本講座に協賛しているNECのCSR・社会貢献室の松下直子さんをお迎えし、NECにおける社会貢献活動や環境保全活動の事例を伺った後、講座初の試み「IT×EEを考える」。IT（情報技術）を活用して、EE（環境教育）をより広めていくためのアイデアを、グループに分かれて自由に話し合った。「環境教育」という言葉は難しい印象があるが、身近で親しまれているITを使ったモノ・コトを通じることで、環境教育の可能性を考える楽しい時間となった。



ITでつなぐ／スカイプによる特別講義

くりこま高原自然学校の塚原俊也さんによる、スカイプを使っでの特別講義。同時開催しているAコース（オークヴィレッジ／森林たくみ塾）の参加者と一緒に、塚原さんのお話を伺った。塚原さんが考える環境教育や冒険教育の意味、震災復興への取り組みや被災地の現状など。画面越しとはいえ、塚原さんの力のある言葉は、一人ひとりに深く刻まれたと思う。

<4日目>



講座のふりかえり・わかちあい～閉講式

最終日は、これまでの時間で得たことをふりかえり、整理する時間。毎晩書き綴った自分自身の記録を読み返し、この講座で学んだことから、今後の自分に活かしていきたいことを、言葉にまとめていく。



学びから行動へ。この講座はゴールではなく、あくまでもスタート。仲間との交流はこれからも大事にしつつも、いつかこの「NEC森の人づくり講座」の輪を飛び出して、全国各地で環境教育を支える力になってほしい。そしていつかまた、清里で会いましょう。

■Bコース:キープ・フォレストーズ・スクール受講生(26期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加工しています。

「4日間のこの講座を通して『獲得したもの』は何ですか？」

Y K (神奈川大学)

今回の講座は色々学び、感じ、体験したプログラムでした。いつも他の活動で伝えることは注意していたのですが、今回の講座で伝わるようにつたえること、相手の立場を考えながら伝えることの大切さを改めて学びました。伝えるだけでは駄目だと、プログラムを作って教えるだけでは駄目なんだということを知りました。その他に今回の一番の気づきは五感を感じる大切さです。今回の講座で暗闇の中を歩いて風の音を聞いたり、自然の中で生きているものをみることで生まれる感情がありました。それによって生きている実感が増えてきたんです。なにげなく生きていた毎日が五感を感じて、感情が生まれることによってこんなにも見る世界が変わるなんておもいもしませんでした。今回の講座で体験をしたことによって改めて野外指導者になる覚悟ができたと思います。

S H (女子美術大学大学院)

今回の講座を通し私は、人が何かを意識し行動するには、自分ごとにするのが大切である、ということを実感した。自然が私たちの衣食住に深く関わっているという実感をできたことは新鮮で、自然に対する意識が高まるきっかけとなった。人が環境についての意識を高めるには、自分にとってちょっとでも、自然を身近なものとして感じる事が大切であるということを実感したのである。では、人に何かを身近なものとして感じてもらうにはどうすれば良いのか。私は、何かを身近に感じるためには、自分の気持ちで感じる必要があるのではないかと考えた。自分の気持ちで感じるとは、単に情報を受け入れるだけでなく、受け取った上で、自分の中に新しい価値をつくるということである。具体的にどのような感性を引き出すことができるかはまだ模索中だが、私が日頃学んでいる美術の特質も使えそうだと考えている。今後は私が、環境教育へつなげる意識を持ちつつ、人の感性を引き出す場に関わることで、人と自然・環境との接点が増えていけばと思う。

S S (日本大学)

今回の講座に参加する前の自分は、人と環境を分けて考えていました。しかしプログラムを自分達で考えていく中で人と自然は分けて考えず、人と自然を繋げることにより自然に対して親しみや興味を持ってもらうことが大切だと気づきました。自然に対しての知識を持つだけでなくその知識を人に伝え環境に興味を持ってもらうためには、上から物を言うのではなく自分にも相手にとっても気持ちの良いコミュニケーションをとることを大切にしていきたいです。“良き指導者は良き参加者であると”教えていただいたように、自分主導で行う行事だけでなく他のイベントに参加した時も積極的に参加し行動することの大切さを改めて気づくことが出来ました。また、講義を受けていく中で、人に自然の大切をただ伝えるだけでなく、参加者が楽しみながら自然に興味を持ってもらえるようなイベントを自分もしたいと思うようになりました。その為にも、普段から虫や木に触れ自然に対して興味や感動を持ち続け、自然に対して積極的に関わっていくことを忘れずに、今後も環境教育について勉強していきたいと思いません。そして、この講座で出会った仲間との繋がりを大切にしてお互い切磋琢磨していければ良いと思いません。

KE（御茶ノ水女子大学）

見て、触って、聞いて、動いて、よく食べて、自分の感覚をフルに使った4日間。はじめは少し遠い存在で怖いとさえ思った自然が、日に日に近くなるのを感じ、動物や植物たちが我々人間を受け入れてくれているような気がしました。まさに人と自然をつないだ4日間だったと思います。私は今後、今回自分が体験し感じたことを人に伝え、より多くの人が環境教育に関わることができるような「キッカケづくり」をしていきたいと思っています。この「キッカケづくり」というのは、IT×環境教育で何が出来るか？というテーマで話し合った際に私たちのグループで出てきたキーワードでもあります。環境教育に興味のある人にもない人にも、まずは環境教育について伝え、知ってもらうことから始めようと思います。また私自身、今後も継続して環境教育の実践を重ね、今回学んだ「インタープリテーション」の方法を使って周りの人々を巻き込んでいけるようになりたいと思っています。

HS（福岡女子大学）

「感動の共有→楽しさ→原動力」これが、私が実感した環境教育のすごさだ。私は、環境に対する人の意識や行動の継続につながる有効な手立ては何か、という問いを持ってこの講座に参加した。この講座への参加を経て思うことは、感動の共有が「楽しい」というプラスの感情となり、その気持ちが意識や行動の継続につながるのではないかということだ。特にインタープリテーション体験と実践は「感動の共有」を強く私に意識させた。感動は、受け止める心の器を大きくする。きっと、伝える人が感じた感動を共有した瞬間だったのだと思う。また、プログラムの実践にも挑戦した。自分たちの感動を共有する過程は一筋縄ではいかなかったけれども、体験者に伝えたいことが伝わった時には達成感と喜びを感じた。体験する楽しさ、感動、伝わるといううれしさ、もっとやりたいという気持ち。そういったものが次の行動やモチベーションの維持につながるのだと、私は思う。

環境教育活動を多くの人に知ってもらうこと、そして、将来的にそのような体験の場を創っていくことに少しでも貢献することが今の私の目標だ。

YO（東京家政大学）

私がこの講座に参加した理由は、森と関わる仕事がしたい。という漠然とした将来の夢をより具体的に、森に興味を持つ学生やOBの方々と交流したかったからです。自分が人見知りであることをすっかり忘れてとにかく参加したい一心で応募しました。とにかく自分と、相手と、向き合ってそれを発信しようとする時間が多かった。とても刺激的な4日間でした。講座に参加し、自分が今まで知っていた環境教育よりも、もっと噛み砕かれた、とっつきにくい環境教育について学ぶことができたと感じています。大学で学んだ環境教育は、学ぶことのほうに重きを置いています。体験から、確実な知識につなげていく。そういうイメージが私の中にあります。しかし、今回学んだ環境教育は、インタープリテーションを通して参加者が自ら気づき、体験することに重きを置いています。そこから、興味を抱いてもらう、もっと体験してもらう、知識を得たい人は知識を得ようと行動する。そういう行動を促すこと、そのためにチューニングすること、そして相手の心に火をつけることの大切さを知りました。「環境教育は、関係教育」この言葉が印象に残っています。

MS（OB・国際自然環境アウトドア専門学校）

今回の講座に参加する直前、私は小さな不安や疑問を多く抱え、自分に自信を失っていた。しかし、

参加したことで様々な人や言葉、瞬間に出会い、今、環境教育を学んでいること、実践できていることの凄さと言いましょか、そんなことを感じる事が出来た。ピンポイントで、自然や環境の分野で活動していくことも大切だが、環境教育に触れたからこそ得る価値観や考え方を持った人達が、そこら中に散らばり、ぐるりと繋がっていくということが、肝心要ではないかと思う。自分自身も、美術の分野に半分足を突っ込んでいたということがあるからなのか、がっつりのアウトドアマン、環境保全家、野外指導者になろうとは思わない。むしろ、他分野の場で、環境教育を通して得た多くのことで、他の人達を巻き込んでいきたいと考える。だが、その為に今、がっつり環境教育というものを学び、実践していき、自分の力にしたい。